

第1回 第7次福島市総合計画策定有識者懇談会 議事録

- 1 日 時 令和7年1月30日（木） 午前9時30分～11時30分
- 2 会 場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 吾妻雄二委員、伊藤由英委員、佐藤真林委員、佐野孝司会長、田崎由子委員、
坪井大雄委員、西田奈保子委員、長谷川美香委員、初澤敏生副会長、番匠亜沙美委員、
深谷茂美委員
- 4 欠席者 今野修委員

5 内 容

○委嘱状交付

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市長あいさつ
- (3) 委員紹介

○第1回懇談会（司会：政策調整課長）

(1) 開会

(2) 会長及び副会長選出

会長に佐野孝司委員、副会長に初澤敏生委員を選出。

(3) 議事（議長：佐野会長）

議 長 はじめに、設置要綱第8条第1項の規定により、懇談会は原則として公開により行うものとし、また、同条第2項の規定により、議事録を作成し、委員の皆様に内容をご確認いただいた上で、市のHP上で公表することといたしますので、ご了承願います。

①総合計画の策定体制と有識者懇談会の役割等

議 長 事務局に説明を求める。

事 務 局 資料により説明。（資料②事務局説明 P3～P8）

議 長 ただいまの事務局からの説明に対して、ご質問がありましたら、挙手願います。

（質問なし）

②福島市の状況

議 長 事務局に説明を求める。

事 務 局 資料により説明。（資料②事務局説明 P9～P61）

議 長 ありがとうございました。

 本日の進め方ですが、課題やまちづくりの方向性について深掘した議論は、次回以降行っていきたいと思いますので、本日は、ただいまの事務局からの説明に対してのご質問をお受けした後に、皆様からお一人ずつ市の現状・将来などに対する率直なご意見をお聞きたいと思います。

 それではまず、ただいまの事務局からの説明に対して、ご質問がありましたら、挙手願います。

議 長 市民アンケートは非常に丁寧に取られていて、非常に興味深い回答結果が得られていると思いました。

 例えば、属性といいますか、どういう方が答えられているかというところ（56 ページ）で、「Q あなたの性別を教えてください。」で女性 56.1%、「Q あなたの年齢は、何歳ですか。」で、60 代・70 代の方が半数占めていらっしゃるって、どういったところに影響が出てくるかなと思いつつ見ていたんですけども、「Q あなたは、福島市は将来どのようなまちを目指していくことが大切だと思いますか。」というところ（60 ページ）で、「健康づくりや福祉が充実した、高齢者や障がい者など誰もが暮らしやすいまち」これ自体は私も同感ではありますが、例えば 20 代とか 30 代の若者が何を最も望んでいるかということが福島市の将来に関わってくるとしますので、もしご用意いただけるようであれば、属性ごとといいますか、若い女性はどういうふうに考えているとか、或いは子育て世代は何を望んでいるのかということがわからないと、10 年後、20 年後というのは読めないかと思いますので、ご準備いただきたいと思います。

事 務 局 ありがとうございます。市民の意見を聞く手段として、ワークショップの他に市民アンケートを実施してます。ワークショップが直接参加というならば、市民アンケートは間接参加だと、こういう整理をしているところですが、市民 1 人 1 人お聞きするわけにはいかないので、標本調査という手法をとっています。

 先ほど 3,000 人を対象に抽出をし、有効回答数が 1,550 人、内訳として性別・年齢の結果の資料（55、56 ページ）にありましたが、対象の抽出にあたっては人口 27 万人の縮図となるように選んでいます。すなわち、地区の分布、或いは年齢の分布、性別の分布が、きちんと小さい縮図になるように対象者を選んでおります。その時点で、56 ページの一番下のグラフの通り、そもそもの住民構成として、いわゆる高齢者帯が多いという分母になっております。その中で、下から 2 番目のグラフの通り、回答率でも、どうしても若い方やお仕事している方の回答率はなかなか上がってこないもので、結果としてある意味、年齢層の高い方の傾向が全体としての結果に色濃く出ている、という状態になってます。

 年齢別にどういうお答えをいただいているのかという詳細については、私どもの方できちんと分析してクロス集計というもので出しており、情報は持っております。次回開催時にはその辺りもお示ししたいと思います。今口頭で申し上げますと、例えば、全体の結果で「健康・福祉が大事だ」と思っている方がたくさんいらっしゃる。ただ、中の構成を見てもみると、高齢者の方がそういう答えを一番に選んでるという傾向があり、子育て層は「子育てが大事だ」という思いを持っていて、若い方は「観光・にぎわいだ」と、こういう形で分布しているというところがあります。そういったものも我々の今後のまちづくりに考えるにあたって重要な示唆になっていると認識しておりますので、次回その辺りの資料も準備し、お示したいと思います。

議 長 ありがとうございます。それでは他にご質問等はございますでしょうか。

委 員 (49 ページで) 先ほどから問題とされてます 20 代の社会減が大きいという点に注目したいと思いますが、この 20 代の数字を見ると、転入も転出もものすごい数なんですよね。

おそらくは、この転出者を見ると、福島市内にある大学の卒業生の数をはるかに上回ると思います。ですから、例えば学校を出て地元就職できないので減ってしまうというだけでは説明がつかず、転入者が多いということになりますと、多分、転勤などの影響も非常に大きいのではないかと。ですから、この辺りを要因別に、例えば転勤などの数を抜いて減少しているとしたら一体どういうようなところなのかと。ただ、例えば福島大学でも毎年卒業生が 1,000 人いますので、毎年 1,000 人の就職先を市内に確保するというのは、まずはあまり現実的な話ではない。ある程度減らざるをえないとは思いますが、そこのところの具体的な内容がどうなっているのかというところは、もう少し精緻に分析する必要があるという印象を持ちました。

事 務 局 ありがとうございます。先ほどのグラフ(48 ページ)のとおり、転出もそうなんですけど転入も減っているという状況になっています。いわゆる社会減の議論になりますと、日本人口の 3 割が東京圏に住んでいるという状況で、東京圏の人口の肥大というのは、何が要因かという、地方からの人口の流れであると。地方が全部東京に流れ込んでるのかという、実は、東北でいえば仙台市、県内でいえば福島市などの、いわゆるダム機能と呼ばれる都市がある程度経由しながら全体として首都圏に流れていくと、そういう傾向が日本国の流れとしてはございます。

(53 ページで) 国立社会保障人口問題研究所(以下、社人研)、こちらは厚生労働省の外部団体ですが、令和 5 年の推計ですと福島市の人口は 23 万となっております。社人研によると、これから、今現在もそうですが、東京以外は一貫して人口が減っていき、東京自体も 2040 年を超えると減っていくという推計となっております。これはなぜかといえば、地方からの供給が減っていくからです。社会減については、我々地方が特に力点を置いて考える必要がある人口問題ではないかというようにはとらえております。

我々がぱっと着想するものと、この年齢帯という就職或いは進学というような分析をしているところですが、定量的な数字としては、どうしても住民票上の異動でしか人口の増減を実質的に測れないというところがあり、かといって 1 人 1 人アンケートを取るというのもなかなか難しいところではありますが、さらにその精緻な分析というのは、我々も必要だと感じておりますし、エビデンスとして備える必要があると思っており、課題だとも今現在とらえております。この辺りは、何か工夫を凝らして、そういった要因要素というのを的確にとらえるような手法も含めて検討していきたいと考えております。

議 長 ありがとうございます。それでは他にご質問等はございますでしょうか。

委 員 市民アンケートの件は十分理解をさせていただきました。その中で 12 月の市民ワークショップでは、アンケートと同じようにいろんな意見が出たかとは思いますが、ワークショップ参加者の年齢帯は、これは逆に若い方を多くする形でその意見の吸い上げというのができてる気もするんですが、そのあたりを教えていただきたい。

事 務 局 アンケートの結果は今ほどお話しした通りで、そもそもの分母が、高齢帯が多いのでどうし

ても高齢者よりの結果になります。これからのまちづくりの主人公は若い方ですので、彼らの声をマイノリティとして埋没させぬよう、直接参加であるワークショップに関しては、高校生・大学生も含む幅広い方にお声掛けをして、構成に若年層の方が多く入ってるような構造にはしております。

明後日2回目のワークショップを予定しておりますが、この中でも若い方はどう考えてるのか、或いは若い方や高齢の方がまざりながら、それぞれに意見交換をしていただくような建付けでやっておりますので、そういった中で、シナジーというか、そういう考えもあったのね、というようなお話も出てくることを期待しながら進めているところです。

議長 ありがとうございます。

それでは、他にご質問がないようですので、ここからは、事務局からの説明を踏まえた市の現状に対する率直な意見を、委員の皆様からいただきたいと思います。

委員 私は、説明や市民アンケートの結果、ワークショップの年齢構成の話聞いて、人はみな年齢を重ねていきますし、それぞれライフステージは展開していくものなので、今どうかということとか、自分はどうかということだけではなくて、他の人のことを思い浮かべて、その人達に何が必要かとか、何をしてあげたいかというようなことを、もう少し大事にしているといいのかな、という気はしております。

世代間協調のまちづくりというか、そういった形で、自分のことだけ、自分の世代のことだけでないものの考え方みたいなものを持つことは、持続可能性にもつながるし、実行プランの市民アンケート指標でD評価が出ているようなところも、もう少し評価を高めていくことにもつながるんじゃないかなという気がいたしました。

委員 昨年、検証会議委員を務めさせていただいて、D評価が多いと話題にはなってはいたんですけども、他の市に比べて優れた取組をされている部分もあるので、こんなに福島市は評価が低いのかという疑問もあって、おそらくこれは、市民によく知られてないというか、情報発信の力が弱いからなのではないか、という感想は持っておりました。

先ほど市長が、この懇談会は羅針盤となるようなものを提言して欲しいとおっしゃっていたので、未来に向けての福島市が目指すべき方向というものに関して、こうあるべきじゃないかというようなお話を皆さんとしていけたらいいかなと思っております。

委員 市民アンケートの結果から見ても、(57 ページで) 自然が魅力と思ってる反面、(58 ページで) レジャー・娯楽、交通の利便性が不足と感じていたり、魅力だけど、それを活かすものがないというか、市民にその自覚がないのだなと思いました。確かに、自然の娯楽というと、スキー場とかバーベキューとか川下りとかゴルフとかが思い浮かぶのですが、そういうのがパツと浮かんでこないっていうのがあって、色々な資源が点になってるから、それが線になってくともっと良くなってくるのかなと思います。それが発信というものもあるのかもしれないんですけど。今日は、そんなふうに思いました。

委員 私もPRが足りていないというところはかなり大きいんじゃないかなと思います。この(成果指標一覧の) D評価のところを見ていくと、数字で示されるものではないところが結構多いのではないかな。例えば「〇〇と答えた市民の割合」というようなものは、ある意味これはイメージの問題であって、どれぐらい実態がとらえられているのか。説明にもありまし

た通り、膨大な政策、これが毎年毎年行われておりますけれども、おそらく普通の市民はこんなこと知らないわけですよ。そうなりますと、福島市が一体何を指して何をやっているのか、というところが見えていない。そのところをもっとPRしていったらいいんじゃないかなと。例えば今福島で問題となっているごみ問題。市役所は積極的にPRしてきたと言うんですが、学生達に話を聞くと全然知らないんですね。ですから、市が積極的にPRしてきたことが、実は市民には全然伝わってない、というようなところもあるのではないかな。そのようなところをもっと情報発信していくことが必要なのではないかと思います。

それからもう1つは、やはり過去の影響というのが大きいと思います。現在、にぎわいづくりや東口・西口をどうするかという問題。私はこれの原因は、新幹線が開業したときにあまりに過大な都市計画を作ってしまった、というところにあると考えております。いまだに西口が埋まってませんよね。40年以上経っても埋まらないような計画を立ててしまった。そのゆがみが、ある意味他のところにもどんどん影響していつてしまっている。やはりこれは、きちんとエビデンスに基づいて、福島ならばこれぐらいのものが必要なんだというような計画を立てていくことが必要んじゃないかな。発展に夢を見て、あまりに大きい計画を作ってしまうと、後に大変なことになるというようなことを感じております。

また、まちづくり基本ビジョンの策定にあたっては、文章表現も含めて、精密にここで検討していくことが必要だと思います。最初に上位計画を作り、その次に実行計画を作るときに、上位計画の中で日本語としておかしい部分を発見してももう直せないの、下位計画もおかしい日本語のままずっと残っていつてしまう。それで何度も、もっと精密に見ておけばよかった、と反省することがありました。ですので、ぜひ、そういった文章表現なども含めて、十分議論することが必要だと感じております。

委員 福島市の人口減のお話と、少し前にこども未来部から提示していただいた未就学児の予想人数というのも見させていただいたんですけども、それを見ると、予想していたよりもかなり少子化のスピードが速いので、これは大丈夫かなというふうに非常に心配しております。ただ福島市に限ったことではないですけども、少子化を食い止めるというのはかなり困難なので、それを少しでもいい状態に、緩やかにしていくためには、やはり、福島市の子育て家庭の状況を、満足度を、少しでも今よりも上げなければならないというのと、また、本当は子供を持ちたいけれども、何かしらの理由で持てない方が結構いると思うので、その方達への支援を充実させるということ、また関係人口をふやすなど、若い世代に福島市にもっと入ってきてもらうにはどうすればいいのか、ということを考えていたところです。

また、普段保護者の方たちのお話を聞いていて、残念だと思うのが、例えば(20ページで)日本子育て大賞を東北初で受賞、共働き子育てしやすいまちランキング2年連続東北1位とになっていることを知っている方は多分あまりいないと思いますし、また、他にも市で頑張っって色々行っていて、支援をしているんだけど、周知されてないというか、わかってない方が本当に多いというのは日頃感じているので、やっぱりPRをもっともっとしていかなくてはいけないなと感じています。

それも少なからず関係しているのかわからないんですが、市民アンケートの結果でも、(60ページで)子育てのしやすさという点を求めている割合が高いこと、また、別の市民ワークショップで、そこは20代から40代の方が多かったと思うんですけども、断トツで子育てどうにかして欲しいというキーワードが多かったんですね。では、具体的に何をすればいいのかということになってくるのですが、今お伝えしたようにやっぱりまず周知をもう少ししたほうがいいのかというのと、あと、保育現場の質を上げるとか、遊び場に関するとかをお

っしゃる保護者の方が結構多いんです。その他にも色々耳にはするんですが、中には、少し頑張ればできるよね、改善できるよね、というのも少なからずあるので、これから具体的に色々考えていくようにはなりますけれども、今度の計画では、そういったできそうなところから少しでも盛り込んでいただければと思っております。

委員 今事例として、日本子育て大賞受賞や、共働き子育てしやすいまち2年連続東北1位にも関わらず、市民の方々との認識のずれがあるということでのPRの大切さということが出ていましたが、当然それはその通りだと思います。併せて、こちらからよかれと思ってやっていることと、受け取る側のニーズに、もしかしたらずれがあるのかもしれないので、そのちょっとしたずれが不満や不安の形として出ている部分があれば、それはきちんと検証しておかなければならないと思います。

また、これからの3年間というのは、DC（デスティネーションキャンペーン）があったり、或いは今年はジブリ展があったり、来年からは大ゴッホ展があったり、また絆祭りも再来年福島で開催されたり、黙っていても外から多くの方に福島に来ていただけるチャンスの何年間かになるような気がしています。残念ながらエールの放送やオリンピックのときは、コロナでそのチャンスを掴みたくても掴めなかったというのがありますが、ここ何年かはそういうチャンスの時だと思いますので、交流人口だけではなく、関係人口をふやせるチャンスでもあることなども頭に入れながら、考えていかなければいけないと思っております。

最後に、やはりこういう計画を作ると、どうしてもそれに縛られてしまい、なかなか急に、例えばコロナのような事態になったときに、フレキシブルに動けないということがあります。現実を実施していくのは市の方々なので、市が、これから策定する施策に縛られて急転換ができないというような計画だとよくないと思うので、どこまで具体的なものを織り込むのか、逆に具体的なものを織り込むよりも、より理念や大きなポイントのところをしっかりとつかんでいた方が、現場の方々が動きやすく、皆様にも伝えやすいのかとか、そこら辺を少し考えながらいければな、と思っております。

委員 市長から、限られた予算、或いは人口減少という言葉が出て、すごい課題と向き合わなくてはいけないんだと感じました。

私は県外から福島に結婚とともに来て、育った環境と福島の環境の違いに戸惑ったことがあり、いいところもあるけど、不便なところもあると感じました。ですから、やはり未来に進めていく上では、いいところはもっと伸ばしつつ、子育て環境や施設の老朽化といった課題に注目して、少しでもその不安のレベルを少なくしていくという方向も必要だと思います。また、福島にはすごくいいところがあるのに、それを活かしていないというのがあるのと、いいものをたくさん作っているのにPR下手といったこともすごく感じているので、そういったところを自分たちで見直すという視点も入れていく必要があると感じました。

委員 資料29ページの集客力ある施設が減っているという点で、週末にイベントでカバーしていることに対して、駅前の通行量をふやすという意味でも、成功している先行事例を研究して決めているのか、またどのようにイベントを開催しているのかを知りたいと思いました。若者が減っている中でのワークショップはすごく良いと思いますが、若者は基本的に市に任せっきりだと感じるので、市も市民を巻き込んでイベントを作ってほしいと思います。私は高校生の時に、OECD東北スクールの一環で高校生フェスティバルをまちなか広場で開催したのですが、来場者に高齢者がいるということまで考えておらず、制限を作ってしまう

たので、市がつくる場合は、市民みんなで作るようなものにしていただければと思います。ふくしまシティハーフマラソン等のスポーツでは、自然と市民が参加して巻き込んではいませんが、一般のイベントでは出展者のみの参加になってしまっていると思います。若い人が流出してしまうという現状は、大学進学だったり就職だったり、また都会に憧れを持っているなどと友人から聞くのですが、福島には何もないと言われないうに、福島での思い出としてみんなで作るべきだと思います。せっかく歩行者天国を定期的に行っているのに、若い方をはじめ、多くの価値感を持った市民が、ともに駅前イベントをすることで、市民同士の交流や市への理解にも繋がるのではないかと思います。そして毎年開催することができれば、大人になって戻ってくるきっかけや、自分の子供にも参加してほしいという気持ちから、福島に住んでくれるのではないかと思います。

街なか広場について、今は椅子が置いてあって、皆さんの憩いの場になってると思います。これはまちなか広場を新しく作る際に、私も市の主催するプロジェクトメンバーに入っておりましたが、人が集まる広場を作りたいという意見で、先行事例を見て椅子を設けました。これからは、より通行量が減ってるということから、新たに何かしてもらいたいなと思います。昨年12月の、駅前にぎわい広場に、学生がワークショップを行ってクリスマスツリーを置いたということはすごくいいなと思ったので、より多くのシーンで、考えて、みんなで作ったものを見に来るという風になればいいなと思いました。

最後に、市の頑張っている姿がわからないと感じます。ごみの分別や防災のアプリがあることを私も最近知りました。ごみの分別を知れるというのは本当にありがたいし、わからないから分別できないという方もいると思います。それを変えるアプリがあるのはいいと思ったんですが、どのような形で広報しているのか、報道機関に任せきりなのかと思うと、非常にもったいないと思います。高齢の方はわからないことは、電話して聞いたりすると思うんですが、若い人はスマホで完結してしまい、わざわざ市のホームページを見たり、インスタグラムを見たりはしないと思います。また、一度調べて複雑そうなものは離脱してしまうというのが若い人たちには多いと感じるので、普段私達が使用しているようなインスタグラムのストーリーなど、そういう機能に広告を挟んで、その中からすぐにインストールすることができるような簡略的な方法ができれば、より市民に福島市の活動をわかってもらえると思いました。

委員 私、大人になってから福島に戻ってきて住んでみて、住みやすい場所ではあるなと個人的には思っています。ただ、生活しやすいっていうのと、若手の20代とか、高校生とか大学生とか、住んでて楽しいって思う都市というのは少しニュアンス的に違うのかなと思っています。色々なところで周回できるという都市づくりのコンセプト自体は分かるんですが、福島の場合は、何をしてもこじんまりしすぎていて、同じような施設が点在してるイメージがあって、市民アンケートの項目にある(57, 58 ページ)“買い物のしやすさ”というのは、スーパーで身近なものが買えるという買い物のしやすさと、土日服を買うとかそういうショッピングを楽しみたいという意味での買い物のしやすさというのは、“買い物のしやすさ”という文字としては同じかもしれないんですが、やっぱり少し違うと思うので、そういった部分もアンケート結果に出ている気がします。

子育てに関しては、福島は郡山に比べると小児科の数が少ないと感じていて、福島に住んでから小児科は4、5ヶ所知ってるだけでつぶれていて、新しくできたところは2ヶ所ぐらいだということで、子育てをする上で、遊べる施設はもちろん大事だと思いますが、やはり何か病気があったときにすぐに行ける医療機関というのも非常に大事だと思います。

すぐに医者や医療機関が増えるとは思っていないですが、地域ぐるみでの子育てというのも課題だという気はしています。

新規就農者のことも資料(26 ページ)にありましたが、新規就農者数は増えてるんですが、果樹で増えてるかというところではなくて、野菜とか花で増えてる印象があります。ただ、資料にはありませんが、新規就農者は多いんですが、おそらく離農者も結構数量いて、耕作放棄地が減らないのだと思います。そのあたりも課題だと思っています。

道の駅ふくしまができることになったときに、大笹生 IC の付近なので、アウトドアができる施設などが一緒に併設されるのかなと勝手に思っていました。(27 ページで) 第2期おおよそインター工業団地の分譲開始とありますが、どうせだったら、道の駅にお客さんが来て、一緒にレジャーもできて、飯坂や土湯もそんなに遠くないので、泊まってという感じで集客を見込めるような感じがいいのかなと思っていたので、高速道路があって利便性がいいのはわかるんですが、そういったところで、ニーズとシーズのちょっとしたかけ違いというのがあると思いました。今回このような懇談会に出席させていただくにあって、少しでもニーズに合った方針というのを議論できればいいかなと思います。

委員 皆さん、市内から蔵王と安達太良と吾妻山と3つ見えるって知っていますか。県内でもいいところだと評判なんです。そういう福島のいいところを、何も無いんだというのではなく、皆さんがおっしゃったような形でPRしていければいいと思います。

また、福島も高齢化率が高くなってきていて、免許証を返納する人も増えています。しかし、福島市は結構広いので、中心市街地まで出てくるにも免許証を返してしまうと本当にどうしようもなくなってしまう。今年から、シルバーパスポートが変わって、バスだけではなくタクシーも使えるようになるのは随分よくなりました。そういう形で少しずつ、みんなで意見を出し合いながら、年を取っても住んでみたい、若い人も行ってみたい、そんな住みよい福島を作らないといけないと思います。

なんでこういうふうになってるのか、なんでこういうものを作ったのか、なんでなかなか帰ってきてくれる人いないのか、そういう「なんで」という部分をもう少し掘り下げれば、この懇談会は、非常に有効なものなるのかなと思います。

議長 ありがとうございます。皆さんの話を伺って感じましたのは、課題解決型のアプローチ、いろんな問題があり、それを何とか解決しないといけない、或いはニーズが色々出てくるので、それに対応しないといけないということももちろん重要なんですけれども、福島の魅力、やっぱりポジティブアプローチでこんないいものがあるよ、というのをきちんと知ってもらって、発信していくことは非常に重要だと思いました。もっと福島市民の皆さんに、福島市を誇りに思ってもらえるような発信というのは必要だと思います。

2点目として、無限に予算があれば何でもやれるわけですけども、そう意味では、限られた予算の中で優先順位をつけてやっていくということが必要だと思いますので、そこは理念のところと、それを政策や施策に落とし込むところで考えていかないといけないことだと思っています。

3点目に、初めに、世代別或いは性別のところで、きちんとアンケートを分析すべきじゃないかという話をしたんですが、若い人が別に自分のことばかり考えてるわけではなくて、やはり自分の親やおじいさんおばあさんのことを考えるという意味では、世代間の協調というか、お互いに思い合えるような都市づくりというのは非常に大事だと感じたところです。いかにそういうふうになってもらえるのかということは、きちんと考えていかないといけない

いと思いました。

最後になりますが、我々も市民の1人としてこの懇談会に参加しておりますが、市だけが考えることではないし、産官学といった形式的なことだけではなくて、多くの方、いろんな世代の方が、一緒に巻き込まれるような、市が中心となって巻き込んでいただくことで、市民の一人としてよりよい福島市を作っていきたいと思いました。この有識者懇談会が、そういう意味では意見交換の非常にいい場で、羅針盤を作っていくふさわしい場だと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは他に皆様からご意見等ございますか。

委員 計画を考える上で、福島市内だけの話でいいのか、福島都市圏という形で、県北地区を視野に入れた形で取り上げていく必要はないのか。すでに郡山はそういった方向で動き始めていますし、もう行政区画が大きい壁になるような時代ではありませんので、より広域的な観点から様々な政策も考えていく必要があるかというように思います。今回はこれでスタートしておりますので、次回の第8次計画ぐらいからそういう視点で考えていただけたらという要望です。

議長 ありがとうございます。

他にご意見がないということですので、このあたりで議事を終了とさせていただきます。

以上で、議長 長の任を解かせていただきます。皆様のご協力、ありがとうございました。

(4) その他

事務局 第2回懇談会の日程について説明。

- ・日時 令和7年2月26日(水) 午後6時30分～
- ・会場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室

(5) 閉会